

学校と地域をむすぶ

大津市立葛川小・中学校

かけはし

地域コーディネーターだより

2016. 12. 7

NO. 5

久多のおじいちゃんおばあちゃんと 楽しいひととき

小学校1～4年生で久多のいきいきセンターに行き、久多のお年寄りの方々と交流会を行いました。ちょっと遅いお昼ご飯を待って子どもたちを出迎えて下さ

ったのは、たくさんのおじいちゃん、おばあちゃん方そして久多社協の方々。さっそく、いっしょにお弁当をいただきました。ちょっと緊張気味の子どもたちに「何年生?」「今、学校は何人いるの?」など聞かれたことに答えながら、だんだん自然に話ができるようになっていきました。緊張もほぐれ、開会

前までちょっとひと遊び。子どもたちは用意してきた遊び道具を持って遊びに誘います。坊主めくり、かるた、どうぶつ将棋、おじゃみ、トランプなど、遊びの輪がいくつもできて、楽しい笑い声や拍手が飛び交います。なごやかな雰囲気に包まれながら、すっかりうちとけた頃、いよいよ開会です。3・4年生がリーダーとなって計画を進めてくれたこの交流会。この日に向けて、1～4年生みんなて練習をしたり、プレゼントを作ったり、準備をしてきました。まずは、ゲーム。

色塗りビンゴ。おじいちゃん、おばあちゃんたちとペアになって、じゃんけんをして勝った人からまずめに色をぬります。「たて、横、ななめに色がそろったら勝ちやよ」「ここ塗ったらいいよ」など、子どもたちから教えてあげます。担当の子どもたちも、見



回りながら「もう一枚どうぞ」と紙を配っていきます。2つ目のゲームは、秋の物ビンゴ。配られたカードには、秋の言葉がすすめに書かれています。担当の子どもたちが箱からカードを取り出し「あまがき!」「くり!」「ゆきんこ!」など言葉を言います。すすめの言葉を見ながら「あと、かめむしが出たら

ビンゴやあ」と次の言葉に期待します。めでたく、ビンゴになった人には手作りの賞品が。「おばあちゃん、ビンゴにならほったで～」 「ここ〇つけて」と気を配る子どもたち。次々としてくる秋の言葉は、久多・葛川ならではの物もいっぱい。みんなで盛り上がりました。次は、「どこいったん」の劇。お面や耳、しっぽをつけて子どもたちはいろいろな動物に変装。ぼうしを探すくまさんと動物たちとの

かけあいは、子どもたちの得意な関西弁で笑いをさそいます。それぞれの子どもたちの動物になりきった姿やせりふを楽しんでいただけたようです。楽しいひとときはあっという間に過ぎていき、最後のプログラムは、プレゼント渡し。みんなで作った、たくさん飾りのついたクリスマスツリー



を贈りました。「ずっと飾らせてもらうよ」と喜んで受け取っていただきました。久多学区社協様より、子どもたち一人ひとりにプレゼントもいただきました。ありがとうございました。「とても楽しかったよ」「また来年もきてね」と子どもたちに声をかけてくださったお年寄りの方々。「来年は4年生やし、また来るよ」「元

気でね」と握手の手をさしのべる子どもたちでした。午後のひと時をいっしょに楽しんでいただいたおじいちゃん、おばあちゃん。お世話いただいた久多社協の皆様方、ありがとうございました。是非、来年も寄せていただきます。



やきいもパーティー あまくて ほくほく

10月はじめに、学校の畑で寿会の方々とさつまいも掘りをした1・2年生。掘り出した真っ赤な114個の大きなさつまいもを焼きいもにして食べるのを楽しみにしていました。そして、寿会さんやピヨピヨ会の小さい子どもたちを招待して「やきいもパーティー」を開きました。朝早くから、来ていただいた寿会の方々には、さっそく火をおこしていただきました。

子どもたちの集めてきた落ち葉だけではなく、中村



のお宮さんの掃除で集めていただいた落ち葉も使わせていただき、

わらや薪も調達していただきました。火をおこしていただいている間に、

さつまいもを洗って濡れ新聞紙、アルミホイルに包む作業を教えてくださいました。火の準備も整い、いよいよさつまいもを火の中へ。火ばさみでつかんでそっと入れます。「おいしい焼きいもができますように」。今年は大きなおいもが多くて、どれぐらいの時間で火が通るのか見当がつかませ



んでしたが、40分間は待つことに。待ち時間に寿会の方々にいっしょに遊んでもらいました。子どもたちが準備した遊びは、「オセロ」「坊主めくり」「将棋」です。「いっしょにオセロしてください」「対戦してください」

と誘ったり、「坊主が出たらカードを出して・・・」と遊び方を説明したり、なごやかな遊びタイムが繰り広がりました。遊びに夢中になっている間も火のもりをしながら、新たに木の枝を拾って火を大きくしてくださったおかげで、待ちに待った焼きいもを取り出す瞬間がやってきました。一つ一つ串にさして、



焼け具合を確かめてもらい、火の通ったいもからアルミホイルをめくっていきま

す。出てきたおいもは見るからにほくほく。いいにおいがしています。早く食べたいけれど、まずは、寿会さんとピヨピヨ会さんにおいもを切って配りました。他の学年の人や先生方、中学生にもお届けに行きました。たくさんのおいもが採れた喜びを多くの人に味わってもらいたいという子どもたちの思いです。そして、みんなで焼きたてほくほくのおいもをいただきました。「おいしい〜」「あまい〜」と思わず笑顔がこぼれました。今年もこんなにおいしいたくさんのおいもが採れて味わうことができたのも、春からお世話になった寿会さんのおかげです。ありがとうございました。残りのおいもは、他のおいも料理をしていただくことにしています。

秋の学校林 大きくなったよ

雲一つない最高の秋晴れのもと、小中学生により学校林活動の秋の部が行われました。昨年とは違い、今年はお天気にも恵まれ、春、夏に続き3回目の活動です。今回は、学校からアシビ谷まで歩いて行きました。駐在所の塩山さんがパトカーの赤色灯をまわして、先導しながら安全確保をしてくださいました。毎回、お世話いただいておりますが、今回も森林組合の方々が、事前に草を刈り、下枝をはらっておいてくださり、苦勞なく山道を上って作業をすることができました。いつもありがとうございます。

今回は、観察がメインでした。たっぷり時間をかけて、班の木を観察して記録しました。昨年の秋に決めた5本の木。ヒノキ、ヤマザクラ、コナラ、クヌギ、スギの5本です。それぞれの班で、木の高さや幹の太さを計ったり、枝や葉の様子などをじっくり観察したりしました。事前に中学生が学習会を持ち、「木のまわりの様子や生き物」という新たな観察の視点を考えました。夏の活動では、織田さんに、ヒノキとスギの木の葉の枚数の数え方を教えていただいたので、それを思い出しな



がら葉の枚数を概算で出すこともできました。

2万枚以上という数字にびっくり。ヒノキだけは、まだヘキサチューブの中におさまっていました。ヘキサチューブのおかげで鹿に葉を食べられることもなく、すくすくと生長している様子がうかがえました。他の木に比べて高さは低いものの、前回から比べると23cmも大きくなっていました。

ヘキサチューブをはずして観察すると、黄緑色のみずみずしい新しい葉が顔を出しました。他の4本の木は、ヘキサチューブの上から元気よく枝葉をのばしてお



り、もう苗木というより、しっかりした山の木になっていました。コナラの木にドングリの実を発見。ヘキサチューブの下を持ち上げている木もありました。木の生長の勢いを感じました。目で見るだけでなく、鼻をくんくんさせたり、木の幹のとげとげにさわってみたりしながら、山の木と触れ合いました。観察した後、それぞれの班の木のまわりに集まって木の様子を発表し合いました。自分たちの木だけで

なく、他の木も確実に生長していること、夏とはまた違った様相が見られたことなどを知りました。今回新たに設けた「木のまわりの様子や生き物」の観察では、コオロギやアリを見つけることもできました。けっこう葉が虫に食われていて、「一体何の虫なんだろう」と疑問に思い、織田さんに尋ねてみると、「おそらく、イラガだろう」と教えていただきました。観察の後は、山の冬支度です。ヘキサチューブやハイトシェルターを雪で倒れないようにわらひもで引っ張りました。ゆるめに引っ張らないと、相当の重みがかかった時に木が折れてしまうのだそうです。作業の終わった山を見渡し、「雪で倒れてしまわないように」「鹿に食べられないように」「春まで待っていてね」と願う子どもたちでした。当日、ご指導いただいた織田さん、いっしょに上って作業をしてくださったスクールバスの運転手の畑さん、ありがとうございました。



写真からのメッセージ

6年生は、国語の学習「私たちのまちを紹介しよう」で、地域のおすすめスポットなどを盛り込んだパンフレット作りをしています。文字だけで紹介するのではなく、そこに写真を取り入れたいという思いから、写真家の宮田さんに写真の撮り方やレイアウトなどのコツを教えていただきました。まずは、宮田さんの撮られた写真を取り入れたパンフレットやパネルを見せてもらいながら、その1枚の写真が撮られた背景や思いをうかがいました。そして、実際に写真を撮りに子どもたちの選んだおすすめスポットの現地に向かいました。第1弾は久多のキャンプ場とカフェレストラン猪鹿村。そして、第2弾は葛川の森林キャンプ場と明王院。両日ともあいにくの雨でしたが、雨だからこそ晴天では撮れない写真も撮ることができました。「雨の日は、木の下のお苔が色鮮やかになるよ」「しゃがんで見ると見え方が違うよ」「こんなところにきのこが生えてる！」など、普通に歩きながらカメラを構えているだけでは気づかないようなことにアドバイスをもらいました。一人1台ずつ持ったカメラで写真を撮って回ります。宮田さんがカメラを向けておられる姿を見ながら、「何を撮っているのだろう」「どんな撮り方をしているのだろう」と同じように真似をしてみると、見え方が違うことを発見。「このもみじの落ち葉撮りたいな」「それだけ撮るより、この苔の上においてごらん」なるほど。もみじが浮き上がり色鮮やかです。「パンフレットだからといってメインの建物をとる必要はない」「『あっ、これいいな』『すてきだな』と思ったものをどんどん撮っていき、それを組み合わせてレイアウトするといいよ。」と教えていただきました。普段から心にとまったものにシャッターを切られている宮田さんに、普通とは違う物の見方やとらえ方を学ぶことができました。2日間で撮ったたくさん写真の中の、どれをどんなふうにするのか、写真のどこに文字をどんなふうに入れるのか、おすすめしたい思いをどんなふう伝えるのか、この後いろいろ構想をねってパンフレットに仕上げていくのが楽しみになりました。



ふしぎ発見！ 坊村町たんけん

1・2年生は、生活科の学習で1学期から町探検をしています。2学期は坊村探検に行きました。行ってみたいところ、話を聞きたい人はたくさんありました



が、その中でいくつかにしぼって2回に分けて探検に出かけました。1回目は、葛川少年自然の家と森林キャンプ場。自然の家では、館内を順に案内してもらい、普段入ることのできない部屋まで見せていただきました。3年生でお泊りに行くのがますます楽しみになりました。森林キャンプ場では、織田さん

にお話を聞きました。「どんな木がありますか」

「流れている川の水はどこからくるのですか」

「お仕事をされていてこまったことや、楽しいことは何ですか」など、どんどんインタビューをしていきました。そして、2回目は、比良山荘と茶房へ。比良山荘では、伊藤剛治さんに普段



見ることのできない調理場を案内していただい

たり、通された客間で女将さんにおもてなしをしていただいたりしました。次から次へと質問が飛び出しました。茶房では、伊藤博さんにお店の中を見せていた



いただきました。お客さんになった気分でもらいいインタビューに答えていただきました。そして、森林キャンプ場で落ち葉と木の实拾い。焼きいもをする時のために、乾いた落ち葉をたくさん袋に入れました。クルミの実もたくさん拾いました。お仕事をされている方々や秋の自然と触れ合うことのできた坊村探検でした。

地域のために役立つこと

小中学生で年に2回行っている地域清掃。ふだんお世話になっている地域のために何かできることをしようと、地域の掃除をしています。今回の秋の部は、各町のお宮さん（今回は葛川の上^{かみ}）の掃除をさせていただくつもりでしたが、あいにくの時雨空。外での掃除を変更し、葛川市民センターの掃除をさせていただきました。



会議室、調理室、和室、玄関の4か所を、グループごとに分かれて掃除をしました。ふだん、なかなかできそうにない所を探して徹底的にきれいにしようと一生懸命手を動かしました。ぞうきんがすぐに真っ黒になり、バケツの水を変えるたびに、「それだけきれいになったのかなあ」

と思いながらますます手に力が入りました。時間に限りがあり、終了時間が近づいてくると、「まだ、せんなんとこいっぱいあるよ」「もっと時間ほしいよお」という声もあちこちから聞こえてきました。短い時間でしたが、やり終えて見渡してみると、とてもきれいになったことを実感し、少しでも役に立てたのではないかと、うれしくなった子どもたちでした。



道具を準備していただいたり、手助けいただいた市民センターの皆様方、ありがとうございます。

今回、できなかった地域のお宮さんの掃除は、是非、次回やらせていただきたいと思います。